

情報発信できる企業に

平成二十七年元旦

理事長 平山 良一



新年おめでとうございます。昨年は消費税の値上げにより、政府の「景気は回復基調」との発表とは裏腹に不況が拡大したと感じるのは私だけでしょうか。我々の作る製品は世の中の商品の動きに連動する、すなわち景気に連動するものであると思います。ここ数年の消費の低迷ではなかなか売上を増大させるのが困難であります。又、昨年不安視した買い控えや原料、経費の高騰は現実化してしまいました。

しかし、私たちはこうした経済の環境に翻弄されないような強い体質の企業を作っていくかなければなりません。世の中が不景気から脱却しようとするとき、そこにビジネスチャンスは生まれてきます。そこに我々の知識や経験が生きてくると思います。

今年、各企業の持つ知見を世の中に披露して、新たな仕事を創出していただくにはありませんか。私たちは仕事は消費の現場で直接効果を発揮するものです。最終消費の現場を想定したアイデアが求められています。ぜひとも発信する企業になっていきましょ

私も理事長に就任以来、組合員、協賛会の方々など多くの皆様にご支援やご指導を頂きながら、私なりに組合運営を行ってまいりました。しかし、私自身の力不足から、なかなか思うような運営が出来ずに、皆さんにもご迷惑をかけていますが、理事の皆様や諸先輩の方々のご理解とご協力で、何とか今日までやってこられました。

「組合に入っていて、本当に良かった」と、すべての組合員の方々に言ってもらえるように、今年も気持ち新たに、頑張っていきたいと思っています。組合は参加しなければその良さは感じていただけません。更に今年協賛会との連携を強化して「非組合員への組合加入」を積極的に進めていくつもりです。協賛会からの最新の技術や資材の情報がタイムリーにもたらされるのは対していいと思います。

そして活動の現場で積極的に情報を収集していただきたく思います。是非、みなさまのご参加をお待ちしています。本年も良い年になりますよう皆さんがんばっていきましょう。

報収集、また同業者でない人と分らない悩みの解決などを実践しています。組合は毎日苦闘している経営者の方の集まりとして、一社の力でできないこと、力を合わせて解決する場です。具体的には支部会で集まり、各種の勉強をしています。その場で自分達が開発した長年の技術を惜しみなく披露することもあります。組合員同士で仕事を回したり、また、懇親の場では普段のストレスを発散したりと参加しただけのメリットを皆感じ取っています。ぜひとも組合からの各種のお誘いに一度お出かけください。

副理事長 近藤 健司



明けましておめでと
ございます。昨年は組
員・会友、そして協賛会
の方々には大変お世話にな
りました。

昨年は思いもよらない
解散・総選挙年末に行われ、
何のための解散だった
かがよくわからなかった方
は多かったのではないでし
ょうか。一説には選挙のた
めに六〇〇億円という税金
が投入されたということ
ですが、本当に我々小規模零
細企業の苦しみが分かって
いるのかといたいと思っ
ているのは、私だけではな
いはずで。

私も昨年から体調を崩
し、長期入院を余儀なくさ
れ、皆様にはご心配とご迷
惑をお掛けしていますが、
今年こそは健康で一年をす

ごいことが出来ればと願っ
ています。

組合も平山理事長を先
頭に厳しい経済環境の中で
必死に組合運営のかじ取り
をしています。どうか組
合員の方々も、自分たちの
組合であるとの自覚を再度
確認していただき、組合運
営にご理解とご協力を切に
お願いいたします。

また、協賛会や会友の
方々も、今年も組合運営に
これまで以上のご支援とご
協力を切にお願い申し上げ
ます。

専務理事 本間 敏道



新年明けましておめで
とございます。昨年は組
合運営にご理解とご協力を
賜り厚く御礼申し上げます。
さて、私事でしか昨年は
後半を病気のために棒に振
った形となり、組合および

組合員の方々に多大なご迷
惑とご心配をおかけしまし
たことを心よりお詫びいた
します。

さて。業界を取り巻く環
境は一段と厳しさを増し、
倒産や廃業という最悪なケ
ースも目立ち、組合運営も
設立以来の大きな岐路に立
たされています。

そんな中でも、BCP対
策(事業継続計画)に積極的
に取組み、九月には小規
模・零細企業向けのBCP
簡易版(ひな形)を作成し、
セミナー参加者に配布しま
したが、これが大きな反響
を呼んだことは周知の通り
です。

また、恒例行事となった
ラベル関連ミニ機材展も、
今回初めて正札シールと神
奈川の組合が協賛し、第十
六回目を昨年十一月に盛況
裡に開催いたしました。

平山新体制になって二年
目となりますが、こうした
厳しい中にあるは、思い
切った改革をしなければ、
企業同様に組合も生き残り
ていくことは難しいかもしれ
ません。
こうした時期だからこ

そ、組合員一人ひとりの協
力が必要になってきます。
組合に参加していただき、
さらに組合運営に参画して
いただけるよう、我々執行
部も知恵を出していかうと
思っています。
何ととっても数は力で
です。どうか組合員の方々の
ご理解とご協力を切にお願
いいたします。

青年部長 川端 信夫



新年明けましておめでと
うございます。
昨年中は当青年部活動にお
きまして、組合員、協賛会
から多大なるご支援ご協力
賜りまして厚く御礼申し上
げます。本年も皆様のご協
力のもと、よりよい実りの
ある青年部活動をしたい所
存でありますので、昨年同

様ご協力の程よろしくお願い致します。

昨年(2019年)前に景気回復を期待して始まったアベノミクスが四月の消費税増税後の景気後退の影響で消費税10%増税を一年半の延期を決めて、十一月に衆議院を解散しました。そして十二月に衆議院総選挙があり、今後の景気回復状況が未だみえない状況で新たな年が始まりました。

そんな中でも当青年部は元気に活動をして行きたいと思致します。昨年は近隣の正札青年部や神奈川青年部と合同で近年まれに見ぬ大忘年会を開催し、改めて協祖の大切さを確認し合えた年でした。今後もお互い協力し合って活発に活動して行きたいと思致します。今年(2020年)は同業種、他業種を通じて色々な印刷関係の事やそれに付随した事を学んでいける場を作りたいと思致します。また、今年(2020年)は二度の海外研修の年で台湾の印刷会社への見学を今計画中でもあります。最後にになりましたが、皆様のご健勝と企業のご繁栄、

そして業界全体の発展を祈願いたしました。年頭の挨拶にかえさせていただきます。

協賛会長 大内 昭彦



新年明けましておめでとうございます。本年も引き続き協賛会各社をお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年の日本経済は個人消費の落ち込みなどにより景気が減速し、私たちを取り巻く事業環境は一年を通じて非常に厳しいものとなりました。二〇一五年も引き続き先行き不透明な状況が続くと思われませんが、そのうち、今年はいよいよ二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの開催基本計画がI O Cに提出

されます。

五〇年前の前大会では各競技場の建設もさることながら、首都高速道路、東海道新幹線などのインフラ整備にも大型投資がなされ、日本の高度経済成長を支えました。

今回は、当時のように東京が一変するほどの大型投資はないものの、その経済効果は決して小さくないと思われまます。これを機に新たなビジネスチャンスが生まれ、より幅広い業界が活躍を呈することを期待するものであります。

さて、シール・ラベル業界においても、新たな需要が出てくる可能性が十分にあると思っております。日本経済にとって、個人消費の回復が一番の課題と言えますが、外国人観光客の増加はその底上げ要因の一つとなつてきます。

二〇二〇年に向けて、さらに日本の魅力を訴えるためのさまざまな企画立案や、商品デザインの見直しが行われていくものと思われま

行者に対する免税対象品目が食品、飲料、薬品、化粧品などの消耗品にまで拡大されました。当然、そこには店頭表示などのシール・ラベルの新市場もあるはず

日本でも当たり前に流通している商品に対して、外国人観光客への注意喚起、購買意欲促進を図っていくために、改めて商品デザインやパッケージを変えていくことが常にベストな方法とは言えません。

そこにはシール・ラベルの新たな役割、ブランドオーナーに対して新たな提案をしていく余地が生まれてくるのではないかと思いま

このように日々変化する情勢をいち早くキャッチして、独自の発想力で自ら仕掛けていくことが市場拡大への第一歩だと思致します。二〇一五年が皆様にとって新たな飛躍への年となることを願いつつ、皆様のご多幸を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

昨年十月には、外国人旅

今年度最後の支部会(忘年会)を開催

静電気防止についてのセミナーも開催

今年最後の合同支部会が、十二月三日(水)午後四時半、台東区上野公園内の「グリーンパーク」にて開催されました。

午後四時半からは、「静電気防止について」をテーマに、丸伸製作所社長の森幸夫氏を講師に、セミナーを開催しました。

これから冬場に向かって悩みの種となる「静電気防止」について、森社長は聖殿の種類や、どうして静電気が起こるのかといった静電気のみかニズムについて分かりやすく説明し、同



「静電気防止対策」テーマに講演会

社が販売している静電気防止グッズについて、実験を交えながらPRしました。また、同社が販売している「レーザー抜き型機」についても、動画を見せながら紹介しましたが、そのスライドや抜ききの正確さに興味を示す参加者も多かったようです。

講演会終了後別室に於いて恒例の忘年会が開催され、挨拶に立った平山理事長は、「組合も昨年は赤字決算となりましたが、今期は今日現在何とか黒字決算となっています。財政基盤の強化が緊急の課題だと思っております。今後よろしくご協力をお願いいたします。」と語りました。

そして毎回お楽しみみのビンゴゲーム大会は、大いに盛り上がり、恒例の最後のじゃんけんポン大会では、当日の最高商品の羽毛布団を幸特殊印刷さんが見事獲得し、坂内支部長の中締めでお開きとなりました。

第十六回目を迎えた「ラベル関連ミニ機材展」は、十一月十五日に東商センターで開催され、一五〇名の参加者で賑わいました。今回は東京都正札シール印刷協同組合と神奈川県シール印刷協同組合が協賛し、一九社が出展しました。また、午前中には連合会の技術委員長・山下庫太氏が「調色」をテーマに講演し、色合わせの基本について分かりやすく、午後からは出展各社によるプレゼンテーションが行われ、各社が最も売り込みたい製品のPRに努めました。今回もカッター、スリッターなどの二次加工省力器や刃型、見積もりソフト、タック紙、インキなどの材料が出展されました。

第16回ミニ機材展が
過去最高の19社出展
150名が参加し賑わう



「調色」をテーマに講演会も

第一〇三回ラベル会

林 泉氏が見事優勝

第一〇三回ラベル会は、十二月四日に茨城県の「常陽カントリー倶楽部」に於いて開催され、三組十一名が参加して、組合員のラベルアンドメイクの林泉氏が、四八、四七の九五で見事優勝しました。

各成績は次の通り。

優勝・林泉(ラベルアンドメイク) 四八、四七計九五
二位・松岡隆(坂崎彫刻工業) 四五、四二計八七
三位・大澤雅純(日弘プリント) 四九、四五計九四
ベストグロス賞・松岡隆 八七

平成16年4月1日から「外形標準課税」が導入・施行されましたが、政府はこれを資本金一億円以下の中小企業にも導入することを検討しています。

外形標準課税とは、事業所の床面積や従業員数、資本金等及び付加価値など外観から客観的に判断できる基準を課税ベースとして税額を算定する課税方式のことです。

そもそも法人事業税は、法人の行う事業そのものに課される税であり、企業はその活動を行うにあたって地方自治体から各種の行政サービスの提供を受けています。このためこれに必要な経費を分担すべきであるという考え方にもとづく税です。必要な経費の分担という意味において所得のみを基準とする従来の方式には問題があり、法人の事業の規模ないし活動量を基準に課税するという外形標準課税が求められていました。そこで東京都中小企業団体中央会では、このほどこれに反対の立場をとり、会

調査を実施しましたが、寄せられた意見・要望について取りまとめました。その一部をここに掲載しました。

■現政権は強いもの、大きなもの、豊かなものに光を当てる政策ばかりに傾注している。政権に対し五年、

外形標準課税の適用拡大 中央会が緊急アンケートを実施 今後も反対運動で政府に要望

現政権の弱いもの、小さなもの、貧しいもの、のなかでついでこれられないものは排除するという手法は、いい加減やめて頂きたい。もうこれ以上の格差社会を作っても国がプラスになることは一つも見当たらないと考え、個々に強く要望する。

■外形標準課税の導入により、採用、雇用に大きな影響が出るのが予想される。また国を支えている中小企業が著しい競争力低下にさらされることも懸念される。

政府には今回の増税の件も含めて、税金の徴収面ばかりでなく、無駄を減らし、現在の枠組みの中で有効に予算を使うように再考していただきたい。

■外形標準課税の適用が拡大された場合、中小企業向けの税金が試算で二十七日増額になるとの事であるが、これが事実だとするとせつかく少し上向きかけている契機に水を差すことは間違いない。

また、外形標準課税の導入後に廃止している国が

多々あるという事実があるが、その廃止された理由を国は精査すべきである。景気の足を引っ張るようであれば導入すべきではないと考える。

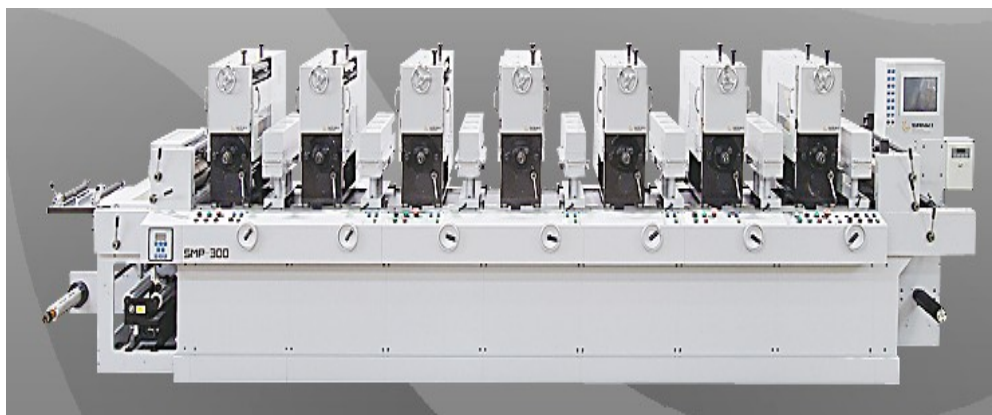
■外形標準課税の中小企業への適用拡大の動きがあるが、人件費割合が比較的高い中小企業ほど負担が大きく、経営状態の良くない赤字法人にも課税されるため、経済好環境実現のための賃金引上げ政策に逆行することになる。その影響が甚大であることから、中小企業への拡大には反対である。

■中小企業は大企業と比較すると、財政基盤も弱く、欠損法人割合も高い。外形標準課税を中小企業に導入することは、担税力の内務欠損法人の経営を圧迫し、さらには中小企業の雇用確保の問題にも影響を及ぼすことになるため、導入すべきでない。形式的な減資により外形標準課税を回避している法人に対しては、資本金等の額を判定基準とすべきである。

三起機械(東大阪市高井田五の四の三九 〇六、六七八七―〇一六一)では、間欠レタープレスラベル印刷機「SMP-300」を

驚くべき見当精度と作業性を実現 間欠レタープレス印刷機「SMP-300」

発売以来、各方面で好評を博している。最先端のモニターコントロールテクノロジーを駆使し、驚くべき見当精度と作業性を実現しました。同社では、作業効率に著しく悪影響を及ぼす「紙ガイド」を



を装備し、発生する問題を解決致しました。これにより、お客様の作業項目から紙替えの手間と糊のメンテナンスを取除きます。

■ダンサローラー装置

原紙に対しテンションを与えつつけることが出来ますので、常に安定した原紙送りを実現します。①ダンサローラー装置 原紙に対しテンションを与えつつけることが出来ますので、常に安定した原紙送りを実現します。

■蛇行修正装置

最新の超音波センサーにより、あらゆる原紙巾を精度よくガイドすることが出来ます。これにより“ガイドレス”という新常識を確立しました。

■印刷シリンダー

シリンダーは抜き取り方式を採用し、専用版貼台で簡単にセット出来ます。さらに、圧胴着脱ハンドルを装備していますので印圧を変えずにシリンダーを取

り出せます。

■カラー液晶タッチパネル

単一画面で多様な操作指示が誰にでも簡単に出来、操作ミスを防ぎます。

■フレキシニユニット装置

チャンバー方式は、ニスの粘度を一定に保つことが出来、密閉されているので紙粉、ゴミ等の混入を防ぎ、平滑性のある高級ニスコーティングが可能です。

■ダイカッターユニット装置

マグネットシリンダーは、ムラ取りを不要とし、少ロット・多品種に対応します。

インライン糊面印刷装置フルロータリーの仕上りをそのままにインラインで糊殺・糊面印刷が可能です。対応品種・・・グロス・PET・ユポなど 特許取得済

No.4408945

最大紙幅は300mm 印刷幅は280mm。詳細は、

<http://www.sankikikai.co.jp/product/smp-300.html>